

発行:在日韓国民民主統一連合（韓統連）

〒110-0016 東京都台東区台東4丁目31-7-302 電話/FAX 03-4362-5284 メール chuo@korea-htr.org

大阪本部が歴史セミナーを開催



金昌範副代表委員による報告

韓統連大阪本部は8月22日、東成区民センターで「韓統連セミナー ウリ近代史② 甲午農民戦争」を開催した。

金隆司代表委員が主催者挨拶を行った後、金昌範

副代表委員が報告。

△甲午農民戦争が発生した背景と指導者である全瑛準について△農民軍の第1次蜂起と1896年6月の「全州和約」について△第2次蜂起と政府軍及び日本軍などとの全面对決(1894年11月牛禁峙)での農民軍の敗北とその後の情勢と、時系列で甲午農民戦争の経過を解説。

甲午農民戦争の意義と教訓として「民衆の実践が社会をつくる主体であることを証明した。真に民衆の社会を建設するためには、自主独立の政府が不可欠だ」と語った。

報告後は、活発な質疑応答が行われ、金昌五副代表委員が閉会挨拶した。次回(最終回)は「ウリ近代史③ 圧政に抗拒する民衆～3.1独立運動を中心に～」を9月26日に東成区民センターで開催予定。

【情勢コラム】

米国は朝鮮との関係改善を望むなら対北敵視行為を中止せよ！



コンピューター・シミュレーション形式による
韓米合同軍事演習

朝鮮の韓国向けウェブサイト「わが民族同士」は8月26日の論評「平和と対決は両立できない」で、同日終了する韓米合同軍事演習を非難した。論評は、「相手が寛大さを持って機会を与えたにもかかわらず、それを黙殺して刃を振り回すことほど粗暴な行為はない」と指摘。「今回の合同演習は朝鮮半島情勢を故意に悪化させるとともに、北侵準備完成の一環として行われた危険千万な戦争火遊び騒動だ」と強調した。合同演習が防衛中心のコンピューター・シミュレーション形式で実施されたとの韓国軍の説明に対しては、「くだらない言い訳だ」とし、「外勢と野合して行く、危険かつ平和を破壊する侵略的な犯罪行為を合理化しようとする浅はかなたくらみに過ぎない」と主張した。



南北通信連絡線の復旧

先月27日、南北通信連絡線が復旧したが、合同演習の事前演習となる危機管理参謀訓練(CMST)が始まった今月10日以降、朝鮮側は南北共同連絡事務所のチャンネルと軍通信線を通じた定期的な電話連絡に応じていない。

統一部は同論評について、朝鮮労働党の金与正副部長と金英哲統一戦線部長の談話と同水準のものと分析、「南北関係の改善に向けた意志と方向が尊重され、実現されるよう望む」と述べ、南北連絡線を通じた定期的な電話連絡は続けるとした。

一方、21日に訪韓した米務省のソン・キム朝鮮担当特別代表は外交部の魯圭恵朝鮮半島平和交渉本部長との会談で、「米国は北朝鮮に対して敵対的な意図を持っていない」との立場を改めて示し、合同演習についても「長らく定例で行ってきた防御的性格の演習で、韓米両国の安全保障を支える」と強調した。

「光復節76周年 朝鮮半島の自主平和統一のための8・15大会推進委員会」は、内外の2335団体、約15000の個人(6711枚のプラカード・アピール)が賛同した「朝鮮半島の自主平和宣言」を8月24日に大統領府に伝達した。8・15大会推進委は「朝鮮半島問題を主導的に解決する努力がいつになく切実とされる現在、南北関係の発展と朝鮮半島の平和を求める各界各層の意志を文在寅大統領に伝え、南北、朝米関係の改善に向けた政策転換に乗り出すよう訴えた」と強調した。同宣言には海外からわたしたち韓統連も積極的に賛同した。



「朝鮮半島の自主平和宣言」に賛同した内外同胞

(関連サイト<https://www.tongilnews.com/news/articleView.html?idxno=202953>)

ソン・キム氏は合同演習の期間中にあわただしく訪韓し、カウンターパートナーの魯圭恵氏らと会談した。バイデン米政権は△米軍撤退を目前とする中で、アフガニスタン情勢が想定外に急展開していること△南北両首脳が主導して実現した南北連絡線の復旧により南北関係の改善が予想されること△8・15大会推進委など市民社会団体が中止を要求する内外キャンペーンを大々的に展開し、国会議員有志が2度にわたり合同演習の延期を要求するなど、内外の反対世論がこれまでにない広がりを見せていること、こうした急変する状況に危機感をもち、朝鮮半島情勢の「安定的管理」のために、ソン・キム氏を韓国に急派したのだろう。あわせて米国政府は朝米協議再開の糸口をつかみたいため、同氏は「米国は北朝鮮に対して敵対的な意図を持っていない」「合同演習は定例的で防御的なもの」と弁明がいの主張を繰り返したが、説得力はまったくない。合同演習を中止してこそ関係改善への道が開かれる。言動が一致しなければ、だれも信用しない。

次号⇒伊藤孝司さん写真展「平壤の人びと」、情勢コラムなど掲載予定です